

# 行政視察報告書

会派 誠の会  
太田更三

## 視察日程等

日時 平成29年6月29日

視察場所 兵庫県神戸市 神戸市立医療センター中央市民病院

視察項目 (依頼) 運営と維持管理

## 視察理由

現在、松本市は、波田地区に市民病院があるが、施設等の老朽化が激しいため建て替えを計画している。

松本市の状況は、健康寿命延伸都市・松本、ヘルスバレー構想等を標榜し、実践している。また、世界健康首都会議を主宰し、国内、海外の多くの方々から、松本市の健康・医療関係に対する取り組みは、当然の事として注視されていると思う。

そんな中、健康に関わる最重要拠点であり「24時間365日、命と健康を守る最後の砦」の役割を担う病院、それも、注目度世界規模ともいえる松本市が主体となって計画する市立病院である以上、病院と地域のあり方について、国内的にも、世界的にも、先進、先端の取り組みをしている病院を視察する必要があるとの思いから、医療産業を標榜する神戸市立医療センター中央市民病院を選択した。

## 視察内容

### 施設概要

21世紀にふさわしい病院を目指す神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の中心、三宮の沖合に作られた、人工島ポートピアランド、またその沖合に神戸空港があり、無人のポートライナー鉄道で、三宮駅から結ばれており、13分で医療センター駅に連絡している。

敷地面積は、46,335㎡。

当初、建物は、延べ面積で、病院棟75,524㎡と駐車場棟6,662㎡の計82,186㎡地上9階、地下1階の42.02mの最高高さがある

患者用駐車場400台、スタッフ用200台の計600台の、鉄骨造り一部鉄骨鉄筋コンクリートの免振構造である。

病床は、700床、内、感染症病床一種2床、二種8床がある。

施設認定は、救命救急センター、第一種感染症、災害拠点、エイズ拠点、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点等の指定病院。

設備は、最新設備を整え、エレベーター24台、内、一般9台、寝台用8台、人と荷物

用5台、非常用2台ありその中には、広さが、2m×3m1台、1.8m×2.7m4台がある。

その後、平成28年に、北館に救命救急センターに精神科身体合併症病棟（MPU）を設置し、8床増の62床で、合計708床となっている。

また、南館には、人材育成センターや病児保育室、学術支援センター等を設置している。延べ床面積は7,124.7㎡増となり、総延べ床面積は、約89,400㎡となっている。

### 沿革

大正13年に神戸市長田区に、市立神戸診療所が開院され、生田区に本院が移転し、長田分院、その後、昭和56年に、中央区に本院移転、病床1000床、20診療科となる。

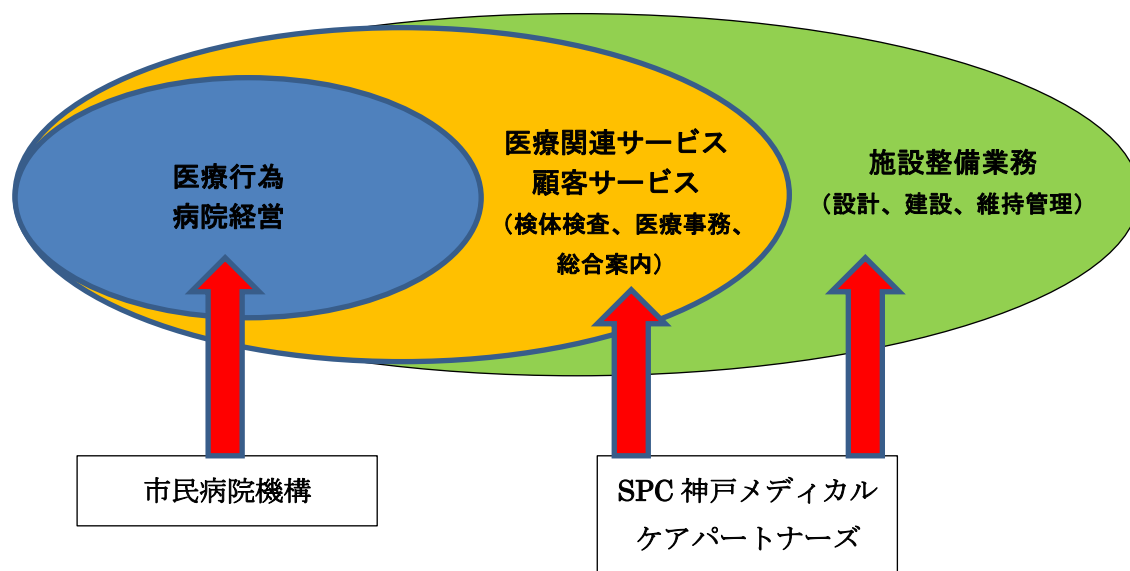
平成7年、阪神淡路大震災、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、平成19年に神戸市立医療センター中央市民病院に改称、平成21年地方独立行政法人神戸市民病院機構へ移行し、平成22年地域医療支援病院に指定され、平成14年からの懇話会、基本構想、基本計画後、平成18年PFI法の手続きを公表し、11月に公告、平成19年入札、基本協定、事業契約をH20年に行い、基本設計10カ月、実施設計8カ月、工事期間24カ月の後、平成23年7月に、現在地に移転、開院し、救命救急センターに精神科身体合併症医療と、人材育成の必要性から平成28年に増設。

### 医療産業とするPFI事業の概要

落札者が、病院施設を建設し、地方独立行政法人神戸市民病院機構に所有権を移転するBTO（Build Transfer Operate）方式で平成53年までの期間維持管理・運営業務を行うものである。

ちなみに、落札者は、神戸製鋼・伊藤忠商事グループで、構成員には伊藤忠商事株式会社と株式会社日建設計で、代表法人は神戸製鋼所で、落札者の出資で平成19年11月30日、特別目的会社（SPC）株式会社神戸メディカルケアパートナーズを設立している。

落札額 102,378,150,000円（消費税含む）



### PFI 事業での効果（病院機構より）

患者サービスにかかる対応等、病院運営の一元的対応が出来る。

業務実施状況や検討課題の見える化

従来の委託、受託から、病院運営のパートナーに進化し、SPC 神戸メディカルケアパートナーズと協力法人（SPC 神戸メディカルケアパートナーズから専門サービスを再委託される企業）との、能動的な取り組みが期待出来る。

### PFI 事業の満足度

入院患者

H23 96.6%、H24 99.0%、H25 98.2%、H26 97.4%、H27 98.2%、H28 99.5%

外来患者

H23 92.4%、H24 95.6%、H25 92.0%、H26 94.7%、H27 93.1%、H28 97.2%

### PFI 事業の課題

病院機構と SPC 神戸メディカルケアパートナーズとのパートナーシップの更なる向上

SPC 神戸メディカルケアパートナーズと協力法人のモチベーションの更なる構築

患者、医療者、SPC、協力法人の要求への対処議論と迅速な履行。

患者への医療者、SPC、協力法人の主体的な提案で、温故知新の元、継続的に改善、再構築を繰り返す必要かつ重要性の認識の継続。

PPP(Public Private Partnership) ➡ PPP(Professional Partnership Progress)を目指す。

### 考察

医療は、人の命を守り、健康を維持する事が目的であり、医は仁術であってしかるべきである。官民共々に、医療技術、医療機器の進化状況に追いつかない人材状況、財政状況ではあるが、人の命と健康を守るのに手をこまねいている事は許されない。

財政状況に税金の利用が容易であると考えられる公営と民間の間に齟齬は許されない。

地方独立行政法人神戸市民病院機構と民間病院、医院との間には、紹介状を介した紹介率 62.5%と逆紹介率 126.7%の率比率に、それぞれの医療者間の生活保障があるのではないかと思う。

出来るものなら、最新、最先端の医療を受けたいのが人情であり、命と健康に、費用対効果等の制約があってはならないと思う。

一流病院を作る事は必然だが、それぞれの立場の医療者の生活保障への課題解決が最重要だと思う。